

国立大学法人長崎大学 中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

大学の理念

長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する。

大学の基本的目標

長崎大学は、東シナ海を介して大陸と向き合う地理的環境と出島、原爆被ばくなどの記憶を有する地域に在って、長年にわたり培ってきた大学の個性と伝統を基盤に、新しい価値観と個性輝く人材を創出し、大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的発展に寄与する。第3期中期目標期間においては、具体的に以下の項目を基本的目標として設定し、新しい学長主導ガバナンス体制の下、改革を迅速かつ大胆に推進する。

- (1) 熱帯医学・感染症、放射線医療科学分野における卓越した実績を基盤に、予防医学や医療経済学等の関連領域を学際的に糾合して、人間の健康に地球規模で貢献する世界的“グローバルヘルス”教育研究拠点となる。
- (2) 全ての教育研究領域の高度化、国際化を推進するとともに、国内外のトップレベルの大学との連携の強化及び実質化、管理運営・人事システム改革、学内資源の適正再配置等をとおして、大学全体の総合力を格段に向上させ、世界最高水準の総合大学への進化のための基盤を構築する。
- (3) グローバル化する社会の要請に応えるべく、国際水準の教育、キャンパスの国際化、日本人学生の留学の飛躍的拡大の実現に向けた戦略的かつ包括的な教育改革を推進し、地域の課題を掘り下げる能力と、多文化が共生する国際社会の現場で活躍する力を兼ね備えた長崎大学ブランド人材を育成する。
- (4) 特に学部教育においては、学生参加型の新しい教養教育と世界標準の学部専門教育との有機的結合により、問題解決能力・創造的思考力・コミュニケーションスキル等の学士力と各専門分野の知識・素養に裏打ちされ、現実の課題に即応できる個性輝く学士を育成する。また、新しい大学教育を高校教育改革と効果的に接続させるため、多面的かつ基盤的な資質・能力を測るための新しい入学者選抜方法を先進的に開発・導入する。
- (5) 地域に基盤を置く総合大学として、地域のニーズに寄り添いつつ、教育研究の成果を地域の行政、産業、保健医療、教育、観光に還元し、グローバル化時代における地方創生の原動力となる。特に、海洋エネルギー、海洋生物資源、水環境、地域福祉医療、核兵器廃絶など、地域社会の持続的発展に大きく貢献し、かつ、地球規模課題にも直結する特色分野における教育研究を重点的に推進する。また、東日本大震災直後から継続している福島との協働を強化し、福島の未来創造に貢献する。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年4月1日～平成34年3月31日

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科等並びに別表2に記載する共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

＜学士課程＞

【1】教育の質的転換を通して学びの質と水準を保証し、確固たる学士力を備えた人材を育成する。

＜大学院課程＞

【2】高度な実践的能力と世界をリードできる高い研究能力を持つ研究者・高度専門職業人を育成する。

【3】熱帯医学・感染症、放射線健康リスク、国際保健領域を中心に学内外の関連研究科や教育研究機関等を糾合し、グローバルヘルス分野で日本をリードする卓越した大学院教育プログラムを修士・博士両課程の有機的連携体制で構築し、世界に貢献する人材を育成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【4】教育の質保証システムとして、エビデンスに基づいた学修成果の把握により、教育の質を改善する。

(3) 学生への支援に関する目標

【5】多様な学生に対応する修学支援や生活支援等を充実する。

(4) 入学者選抜の改善に関する目標

【6】アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）に基づく、入学希望者の多様性及び学力の三要素を踏まえた多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を開発・導入する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【7】世界に貢献する新たな強み領域を創生し、総合大学として日本をリードする研究力を格段に向上させる。

【8】「世界をリードする感染症研究拠点の形成」を図ることにより世界トップレベルの教育研究拠点を構築する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

【9】研究人材育成体制の整備を行うとともに、研究支援組織を融合・拡充し、研究力を強化する。

【10】子育て・介護等のライフイベント中の教員の研究力向上のため、ダイバーシティ研究環境等を整備する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

【11】大学の知を結集させ、社会の要請に応えるとともに、知の拠点として地域に根ざした教育・研究を通して、地域の未来創造における主導的役割を果たす。

【12】福島原発事故後の復興に資する教育研究・人材育成の推進と地域創生に貢献する。

【13】大学の研究成果等を活用し，産学官連携を推進するとともに，地域社会へ貢献する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

【14】長崎の地理，風土と鮮烈な記憶，歴史に根ざした個性を基盤に，多文化が共生する国際社会の現場に強い，行動力のある長崎大学ブランドのグローバル人材を育成する。

【15】外国人教員や留学生を増加させ，キャンパスの国際化を図る。

【16】国際貢献に資するため，海外教育研究拠点の機能強化を図る。

(2) 附属病院に関する目標

【17】地域に根ざした質の高い医療人を育成する。

【18】高度急性期医療の強化を図り，地域の中核病院として最高水準の医療を提供するとともに，医療の国際貢献を推進する。

【19】未来の医療の高度化に寄与する橋渡し研究を実施する。

【20】中長期的な財政計画に基づき効率的な病院経営を推進する。

(3) 附属学校に関する目標

【21】教育学部・大学院教育学研究科と組織的な協働により，児童生徒の確かな成長に資する先進的教育研究や課題解決力を備えた実践型教員の養成を推進し，地域におけるモデル校園として長崎県の教育振興に貢献する。

(4) 大学間連携に関する目標

【22】国立六大学（千葉大学，新潟大学，金沢大学，岡山大学，長崎大学，熊本大学）連携コンソーシアム等の大学間連携により，教育・研究等の機能の強化を図る。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

【23】学長のリーダーシップの下で，組織運営の改善，戦略的な体制整備等によりガバナンス機能を強化する。

【24】弾力的かつ柔軟な人材の配置と，資源の重点配分を推進する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

【25】「ミッションの再定義」や社会的ニーズを踏まえ，教育研究組織を見直し，教育及び研究の更なる機能強化を図る。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

【26】グローバル化や地域貢献など時代の要請に対応できる業務体制を整備する。

【27】本学の基本的目標の達成に向け，職員的能力向上を図るとともに，組織を活性化する。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

【28】外部資金及び自己収入の増加に向けた戦略的な取組を推進する。

2 経費の抑制に関する目標

【29】安定的な大学運営を図るため、財務分析情報の活用や業務点検による業務改善を行い、経費の抑制を図る。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

【30】資産の体系的な管理を行い、効率的に運用する。

Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

【31】全学的な改善サイクルを確立させ、教育研究の質の向上を図る。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

【32】本学の強み・特色や運営状況等について、国内外のステークホルダーに対し、正確かつ迅速に情報発信を行う。

【33】大学図書館を世界と地域に開かれた「知の拠点」として情報発信を行う。

Ⅴ その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

【34】本学の教育研究環境の向上のため、計画的かつ効果的な施設設備の整備を実施するとともに、施設の有効活用を進め、安心・安全かつ良好な施設環境を提供する。

2 安全管理に関する目標

【35】学生及び教職員の安全と健康における安全管理体制を強化する。

3 法令遵守に関する目標

【36】法令遵守の徹底及び管理・監査体制の強化を図る。

【37】研究における不正行為及び研究費の不正使用を防止する体制を強化する。

別表 1 (学部, 研究科等)

学 部	多文化社会学部 教育学部 経済学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 環境科学部 水産学部
研 究 科	教育学研究科 経済学研究科 工学研究科 水産・環境科学総合研究科 医歯薬学総合研究科 熱帯医学・グローバルヘルス研究科

別表 2 (共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点)

(共同利用・共同研究拠点) 熱帯医学研究所 原爆後障害医療研究所 (教育関係共同利用拠点) 水産学部附属練習船長崎丸 海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター
--